

Artfull うちうら

(2022) <vol.103>

内浦公民館講座

スマホの使い方教室～2回シリーズ～



*QRコード
広報誌をカラーで
ご覧いただけます。



3月23日(水)と26日(土)の2回。内浦公民館1階会議室で【スマホの使い方教室】を開催しました。講師は副田宗義さん(山中区)「スマホの重要性を認識し、誰もが当たり前のように操作出来るようになる事が大切」と、参加者みんなで行いました。個人差があるからこそ、お互いわからない事を遠慮なく話し合いました。

操作出来たことの達成感で盛り上がりました。これからも続ける事が大事ですね。

四季の過ごし方～春～教室



3月26日(土)13:30から【四季の過ごし方～春～教室】を開催しました。講師は、山崎慶子さん。春の季節に合った食事の取り方を学びました。冬に食べ過ぎた体を整えていくのにピッタリなスープも教わりました。

3季を通して四季の過ごし方教室で学んだ事は、地元で収穫された物をバランスよく食べて無駄にしない。SDGsにもつながっています。大切な事ですね。今後とも続けていきたいと思います。!(^^)!

●開館時間 午前8時30分～午後10時 ●利用時間 午前9時～午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時00分で閉館いたします。



祝 入学

内浦小学校にご入学のお二人に、これから頑張りたい事を聞きました。



せんせいのはなしをちゃんと聞いて、べんきょうときゅうしょくをがんばります。

たなかこはる さん【神野浦区】

べんきょうをがんばりたいです。

もりしまだいち さん【山中区】

地域ニュース

今年のかかしアート
ええで～見たか？

地域の方から教えて頂きました。かかしを作られたのは、永谷秀之さん。五色山公園に向かう道の途中、左側の竹やぶの下の畑にカラフルなかかし達が見えてきます。(^^♪楽しいですよ。



写真はほんの一部です。
かかしの表情もチェックしてくださいね。

4月17日(日)に春のハイキングを開催します！

今回は、碎導山に登ります。碎導山城跡は大きな山城跡です。見学道が整備され見どころもたくさんあります。また、佐伎治神社と高浜町郷土資料にも立ち寄ります。高浜町の魅力を再発見しましょう。

時間や持ち物など、詳しくは【春のハイキング】のチラシをご覧ください。皆様のご参加お待ちしております！

*「碎導山城跡保存会」発行のチラシは内浦公民館にあります。イラストで分かりやすく見学ルートも載っていますので、手に取ってご覧ください。





今回は今村翔吾 著『塞王の盾』です。

越前・一乗谷城、敗走してきた朝倉軍の残党とともに、逃げ惑う農民や町民たちも、追ってきた織田軍に虐殺される。その中で幼き匡介(きょうすけ)は父母と妹も犠牲になり、逃げる途中に石垣職人の源齋(げんさい)に助けられる。匡介は源齋を頭目とする石垣作りの職人集団・穴太衆(あのをしゅう)の飛田屋で育てられ、やがて後継者と目されるようになる。匡介は絶対に破られない「最強の楯」である石垣を作れば、戦を無くせると考えていた。両親や妹のような人をこれ以上出したくないと願い、石積みof技を磨き続けていた。

秀吉が病死し、石田三成を中心とする西軍と徳川家康を中心とする東軍の大戦が近づく中、匡介は東軍に与(くみ)した京極高次(きょうごくたかつぐ)より琵琶湖畔にある大津城の石垣の改修を任される。琵琶湖畔の大津城は西軍にとっては進攻路を繋ぐ交通の要衝であり補給の拠点でもあり、大戦の行方に大きく影響を及ぼすものであった。

匡介は技術を駆使し湖面より高い空堀に水を満たすことに成功し、石垣を改良し万全の守りとしていく。

一方、そこを落とそうとする毛利元康は、鉄砲づくり集団・国友衆(くにともしゅう)に鉄砲作りを依頼する。「至高の矛」たる鉄砲を作って皆に恐怖を植え付けることこそ、戦の抑止力になると信じる国友衆の次期頭目・彦九郎(げんくろう)は、「飛田屋を叩き潰す」と宣言する。

石垣づくりには、石を切り出す山方、石を現場まで運ぶ荷方、石垣を積む積方があり、それぞれに熟練した技能を要する。戦乱が多い時代は自然の石をそのまま使う野面積(のづらずみ)が多く、穴太衆の技術は特に技術が高いとされた。野面積みは石を選ばず、その場の感覚で積み上げていく。石の隙間があり、水はけが良く、内からも外の攻撃からも崩れにくいとされた。関ヶ原の戦い以後は、石の面を平たくし隙間を減らし高く急な勾配を付ける、打ち込み接ぎ(うちこみはぎ)という積み方が多くなり、戦が無くなるにつれ、整形した石を密着させ積み上げる、見た目重視の切込み接ぎ(きりこみはぎ)が主流になっていく。

大津城の攻防が膠着する中、毛利方は西国無双と呼ばれ、文武に秀でた立花宗茂が前線に出て、彦九郎が作った大筒で匡介の積んだ石垣を攻略しようとする。彦九郎の放つ砲弾の合間毎に、匡介達は命を賭して「懸(かかり)」という職人全員で行う突貫工事。で傷んだ石垣の補修を繰り返す。両者の死闘の決着はどうなったのか。

石垣造りの「穴太衆」と鉄砲造りの「国友衆」が主人公となる小説はめずらしく、同じ近江に存在し、お互いを意識していたのも興味深く読めます。

京極高次の人となりの描写もこの小説に深みを与えています。四面楚歌での大津城の戦いのなか、最後は降伏し、開城しますが、数万もの西軍を足止めにした功績で、家康から若狭の国8万5千石を与えられ、その後も近江の国高島郡7千百石を加増され、小浜の町の基礎を築きます。



京極家は室町時代からの名家ですが、家臣の浅井家に裏切られ、家は凋落し、幼少の頃は信長の人質として育ち、本能寺の変で信長が亡くなると、高次の妹は明智光秀に嫁いでいたため明智方に付きますが、明智亡き後、秀吉が高次の妹を側室としたため、許され秀吉の下で働くこととなります。その後高次は浅井3姉妹(信長の妹「お市の方」と浅井長政との子)の二女・初を娶ります。女性の縁者に助けられたことが多かったことから、「蜚大名」女の尻のおかげ(七光り)で出世したやつなどと揶揄されますが、部下に慕われ、領民思いであったのです。

京極高次の生き様を描いた小説には、郷土の作家、水上勉氏の「湖笛」がありますが、家を守り家臣を守りぬくため、武士としての誇りを捨てても、戦乱を生き抜いた人間味あふれた武将として描かれています。

～館内展示のご案内～



【広報たかはま】のフォトライターとして活動されている 伊東大輔さんの写真を 1 階ロビーで展示しています。内浦に関する写真を展示していますので、皆さんご覧ください。



内浦地区のどこの風景か考えながら見てくださいね。写真っていいですね(*^^*)

チャレンジコーナー結果発表

1 分間に箸を使って豆を運ぶ【豆いくつ?】。「簡単そうでやってみると上手くつかめない。」という感想が多くきかれました。

結果は、小学生以下の部…最高 22 個。

中学生以上の部…最高 16 個でした！

お箸の使い方の再発見も出来たでしょうか？

チャレンジしていただいた皆さんありがとうございました。



これからの内浦公民館講座のお知らせ

月	日	曜日	講座内容
4	17	日	春のハイキング（碎導山城跡巡り）8：30～12：00 *詳しくはチラシをご覧ください。
	19	火	元気あっぶ生き活き倶楽部<13:30～15:00>
	26	火	男の体操<13:30～15:00>

● 《ウクライナ難民支援募金》にご協力をお願いします！

内浦公民館と内浦ぐるりん倶楽部では、《ウクライナ難民支援募金》を実施しています。募金箱は、ぐるりんバス内、内浦公民館日引ふれあい広場に設置してあります。皆様の募金協力をお願いいたします。



【お願い】新型コロナウイルス感染症防止の為、受講時には原則としてマスクの着用、アルコールによる手指の消毒をお願いします。また、受講前には必ずご自宅での検温をお願いいたします。(体温が37.5℃以上や体調が悪い場合はご遠慮ください)
*ご利用においては、定期的な施設内の換気にご協力ください。